オリーブハウス　運営推進会議

事業所名：認知症対応型通所介護オリーブハウス

会議開催日：R8/10/20（火）

出席者

事業所	2 名	12 区民生委員	1 名
宇城市包括支援センター	1 名	12 区地域代表	1 名
12 区福祉会推進委員	1 名		

議事

1　各自、自己紹介　　（家族代表は地震の影響で不参加）

2　事業所の利用者状況報告

地震発生から再開まで～

〇発生時の対応

・職員 3 名、送迎者 3 台で送迎中に発生（三角、豊野、松橋、不知火方面)。

・職員連絡取りながら対応行う。

・1 名は独居の方で自宅の玄関も開かず、熊本市内の家族に連絡つき、19：30 過ぎに迎えに来られる。その他の方は無事に送迎すみ。

〇休業中の対応・利用再開に向けて

・利用者及びご家族へ連絡行い、安否確認や地震の被害状況、健康状態、生活状況の把握を行う（被害ある中で、利用者への対応で苦慮されており、早い再開を願う声が多く聞かれる)。

・担当ケアマネジャーと今後のサービス利用について情報共有行う。

・断水の影響あり、生活用水、飲料水、食事（レトルト等）の確保。

・職員の被害状況、出勤可能な職員の把握。

〇再開後

・断水継続しているが、5 日より再開し、入浴は清拭（代替サービス）にて対応、給水制限あるものの、11 日より通常サービスに戻る。

〇利用状況

休業期間：令和 8 年 7 月 29 日～8 月 4 日

再開日：令和 8 年 8 月 5 日

地震前の登録利用者数：26 名

現在の利用者数：21 名（地震の影響で中止・休止中の方 5 名）

3　消防署より防災の講話

利用者 7 名　運営推進会議メンバー4 名　　施設職員 4 名

消防署職員より、熊本地震の経験を踏まえた、地震発生時の初期対応や避難方法、日ごろからの防災意識についての講話（1 時間）を受ける。

・緊急地震速報が発表されたら、第一に自分の命を守ること。安全な場所への避難。頭を保護し、机の下などに避難。エレベーター利用時は最寄りの階に停止し急いで降りる
・自助（自分で身を守る）共助（近所、地域住民と助け合う）公助（消防、警察、自衛隊）災害時は共助がとても大切。地域の方と日ごろからのコミュニケーションを。
・日ごろからの防災準備が大切。キャビネットの固定。飲料水や着替え、防寒着の準備事前に避難場所を家族で共有しておくこと。
・台風などは事前に予測できるため、事前に準備できる（高潮等にも警戒）
・通信障害が、災害時は起きるため、電話は繋がりにくい。情報ツール　LINE などは繋がりやすい。
・施設でも通信障害で、家族との連絡が繋がらなかったため
家族とも、LINE なども含めた情報ツールの活用を勧めていきたい。

質疑応答

・地震の訓練を実施する際、初期避難時の対応で、座布団で頭を守るということを行っているが、それでいいのか
→座布団で頭を守るという方法は、とてもいい方法。今後も続けて下さい
・救急車を呼ぶ時、サイレンを鳴らさないで来てもらえないのか
→サイレンを鳴らすのが基本になっている。どうしても鳴らさないでほしいという場合は、広い所まで来て案内してもらえるなら、サイレンを止めることはできます。
・少量の家庭での草などは燃やしていいのか
→少量なら大丈夫だけど、多くなると一報入れて欲しい。野焼きや地区の行事は届出をすれば可能。
・避難経路が塞がれた場合、どうしたらいいのか
→とにかく外へでることが大事。窓など開く所を見つけて、どうにかし出てください。命が最優先。

4　地域住民様より

公民館にて、麻雀や書写、体操教室、脳トレなど行っている。

地域密着型でもあるため、参加してみてはどうか。

以前おりがみ教室に参加したが、職員の人数確保ができないこともあり、参加困難になった。今後、毎週月曜日、脳トレ・体操教室があるため、利用者様の体調など確認しながら、参加していく。

次回、会議　R9 年 2 月予定　　以上